

VREに関するQ&A

VRE と VRE 感染症一般について

Q.VRE って何（どんな菌）ですか？

A.ヒトの腸内にいる一般的な細菌で腸球菌（ちょうきゅうきん）という菌があります。VRE とは「バンコマイシン耐性腸球菌」の略称で、本来効くはずのバンコマイシンという抗生物質の効かなくなった腸球菌のことです。

Q.VRE は多剤耐性菌のひとつですか？

A.そうです。腸球菌はもともと有効な抗生物質が少ない菌です。VRE ではさらにバンコマイシンという普通の腸球菌なら効くはずの抗生物質が効かなくなっている（これを耐性といいます）ため、有効な抗生物質が非常に少なく、多剤耐性菌のひとつと言えます。

Q.VRE のそもそもの起源は何ですか？

A.一説には大昔から自然界の細菌が持っていた抗生物質に抵抗するための遺伝子が、なんらかの過程でヒトの腸球菌に入りこんだ、と言われています。

Q.VRE はどのように感染するのですか？

A.VRE は接触感染によって広がります。VRE をもっているヒト（保菌者といいます）の便から排出された VRE が、保菌者の手からヒトへの直接的感染、あるいは医療従事者やベッド柵、トイレ、ドアノブなどの環境を介した間接的感染によって伝播していきます。

Q.VRE に感染したかどうかはどうやって分かりますか？

A.VRE は保菌しても通常は無症状なため、VRE を狙って検査をしてはじめて、保菌者であるかどうか確認できます。検査は便や直腸のぬぐい液を使って行います。

Q.VRE に感染するとどうなるのですか？

A.VRE の病原性は非常に弱いので、健康なヒトが感染しても病気を起こすことはありません。

しかしがんや胸腹部外科手術後の患者さん、白血病、やけど、免疫不全、栄養失調などの重い病気の患者さんが感染すると病気を起こすことがあります。

Q.そんなに怖くない細菌とのことですが、なぜ大騒ぎになるのですか？

A.VRE 自体の病原性は弱いのですが、がんや胸腹部外科手術後の患者さん、白血病、やけど、免疫不全、栄養失調などの重い病気の患者さんが VRE 感染症を発症すると重症化するおそれがあります。VRE は VRE を狙って検査をしない限り感染の有無がわからないため、感染状況が正確に把握することが難しく、上記のような患者さんが入院している病院ではとくに注意が必要といわれています。

Q.VRE 感染症にはどんなものがありますか？

A.VRE 感染症は、血流感染症、心内膜炎、尿路感染症、胆管炎、創部感染症などがあります。

Q.VRE の保菌状態と感染症発症はどう違いますか？

A.腸内に VRE がいるだけで何の病気も起こしていない状態を「保菌状態」といい、この場合、便あるいは直腸ぬぐい液以外からは VRE は検出されません。VRE が便や直腸ぬぐい液以外の場所からも検出されていて、その場所で病気を起こしている場合に「感染症発症」と考えます。

Q.下痢しているのですが、VRE ではないでしょうか？

A.VRE 感染では下痢を起こすことはありませんのでご安心ください。その他の病気の可能性につきましては、医師にご相談ください。

VRE 陽性の方からのご質問

Q.VRE に感染すると退院できないのですか？

A.入院の元となった病気が治れば退院できます。高齢者で VRE を保菌している方が老人保健施設や介護施設へ転院される場合、施設の受け入れ態勢が整うまで退院延期になることもあります。

Q.VRE に感染していると言われました。消えるまで入院させてほしいのですが。

A.VRE はいったん保菌すると消えるまで長期間（数ヶ月）かかると言われていたもので、申し訳ありませんが、消えるまで入院していただくことはできません。ご理解ください。

Q.VRE 感染者を退院させて、一般の人と接する機会を作っても良いのですか？

A.VRE は健康な方にとってはほとんど無害な細菌であり、また、市民のみなさんの中には知らないうちに保菌している方もいらっしゃると思われるため、とくに退院

させてはいけない、とは考えられておりません。

Q.VRE に感染していると言われました。退院後の日常生活はどうしたらよいでしょうか？

A.周囲に高齢者や新生児、特別に抵抗力の弱い方がいない場合は、過度に神経質になる必要はありませんが、できるだけ、以下のことを心がけてください。手洗い：食事前、トイレ後には石けんと流水で手洗いをしてください。入浴：出来るだけ入浴し、体を清潔にします（シャワーも可）。浴槽には体を洗ってから入るようにしましょう。食事：制限はありません。洗濯：便や尿で汚れがある場合は、下洗いを行ってから、他の家族の洗濯物と一緒に洗ってください。よく乾燥させてください。運動：制限はありません

Q.VRE に感染していると言われました。家族や知り合いにうつりませんか？

A.便からうつる菌ですので、トイレの後など、一般的な手洗いを励行していただければ、うつる可能性は少ないです。なお、健康な方が保菌者となること自体が少ないといわれていますが、かりに保菌者となっても発病することはありません。また一定期間を過ぎるとVRE はいなくなるといわれています。

Q.VRE に感染していると言われました。今後消えたかどうかはどうやって分かりますか？

A.VRE が陽性となった患者さんに対しては、定期的に便または直腸のぬぐい液で検査をいたします。3 回連続陰性となった場合に、「VRE が消えた。」と判断して、隔離を解除いたします。ただし、お身体の具合によっては、再度陽性となることもありえますので、ひきつづき手洗いの励行をお願いします。

Q.VRE に感染していると言われました。家族の検査はしてもらえますか？

A.健康な方は保菌者になりにくく、かりに保菌したとしても無害な菌ですので、ご家族の検査は必要ないと考えています。もし、どうしてもご希望でしたら、通常の外来保険診療でおこなうことは可能ですので、医師にご相談ください。

Q.VRE 感染症を発症したら、その治療費はどうなりますか？

A.VRE 感染症の治療にかかった費用については、定められた保険点数にのっとりご請求させていただきます。

VRE 陽性の方以外からのご質問

Q.外来診療を受けたいのですが、うつりませんか？

A.外来で感染することは極めて少ないと思っております。手洗いが最も有効な予防手段です。

Q.今度、入院予定なのですが、うつるのが心配です。

A.ご心配をおかけして申し訳ありません。職員および患者さんの手洗いの徹底・環境清掃の強化・新規入院患者さんの保菌検査など、今まで以上に厳重な感染拡大防止策に取り組んでおります。

Q.産婦人科で健診を受けるのですが、胎児には影響ないですか？

A.外来で感染することは極めて少ないと考えております。腸内に住む細菌なので、胎児への影響はありません。

感染拡大と感染対策に関するご質問

Q.いつごろから院内で広まっていたのですか？

A.VRE はほとんどの場合感染しても症状をおこしませんので、いつごろから入院患者さんの中に VRE に感染していた方がいたかは分かりません。4月に患者さんの1人から VRE が検出されて、初めて院内に複数の VRE 患者さんが存在していることが分かりました。

Q.どうして広まったのですか？

A.当院では以前より、ICT という感染対策チームを中心に、職員をあげて国際的に定められている感染予防策に取り組んでまいりました。しかし、患者さんから患者さんへ簡単に伝播し、感染してもほとんど症状をおこさないという VRE の性質上、気がつかないところで拡大が進行していたものと思われます。

Q.「より厳重な感染対策」とは、何をどうかえたのですか？

A.当院では、VRE 発生以後、以下のことに取り組んでおります。

- ・ 職員の接触感染予防策の再教育と検証
- ・ 患者さんに対する手洗いと便座消毒のお願い
- ・ トイレやベッド周囲をはじめとする環境清掃の強化
- ・ 保菌者を早期に把握するためのスクリーニング検査（保菌調査）
- ・ VRE をふやさないような抗生物質の使い方の励行
- ・ VRE を保菌しやすい要因の分析（将来の対策に生かす）

Q.どのような状況になったら終息となりますか？

A.病院内で新たな感染者が出現しない状態が続いた場合に、院内感染対策委員会での話し合いの中で終息宣言を出します。

Q.終息した後のスクリーニングは必要ですか？

A.いったん終息宣言が出された後も、新たな感染者が出てこないかを監視するため、一定の基準にしたがって患者さんの検査はつづけていく必要があります。